

傳築田舎原氏

三十五

特 別

Λ13

4274

35



願  
年



侯  
繁  
山  
名

三十五編上

第世 五編 上卷 仙鶴 堂梓

倭紫

種彦作 國貞画

田舎源氏



倭紫田舎源氏第三十五編

虚を實に見せし凡夫三千人お式部ひびり歎之実をうつらうつら  
吉原源氏五十四君の序の書は連懐るその名を隠して作者源氏の尻と  
記を秘し又式部小路のお孫の名を假しをかり入似せられも終白粉の  
雪にこそ事黒人ふ向ひて面かぶり争頭の何なるべきま文のまをの  
山風のある一節陀羅尼とむらういぢまやかく此網のくもぬらう覚  
るややまの血涙よりも最まごぼりふ尼が實を説て盡すべけれん  
歎せし力のあるる娘の初編ふいひかく秋のあまの松水岡安物漬  
實盛の徳合りといふまをけは空言と見せしを初る妻語の罪ふ  
沈み被浅茅の尻公を諷し田舎源氏の供養をこのまん

天保十二年辛丑初春 柳亭種彦識

原氏三十五編



螢の巻の詞

申侍の君をさるるに  
けぞあくもてあ  
さこそえあへれど  
ひの君の侍方あ  
さうえあちまこそえ  
まふまふ  
あつちし  
まふまふ  
難あぞ  
百の  
けぞあ

雲井之丞氏仲

暇ある日ハ妹明石の  
仿と遊むを

あもあれ  
あふり  
あまひ  
年月の  
まふまふ  
あつちし  
まふまふ  
あつちし  
あつちし  
あつちし

京ノ...

月夜をききとてななるるる日  
花のよもぎもはらわたり  
そのよもぎもはらわたりと  
ききとてななるるる日  
花のよもぎもはらわたり



目録をきき

目録をききとてななるるる日  
花のよもぎもはらわたり  
そのよもぎもはらわたりと  
ききとてななるるる日  
花のよもぎもはらわたり

かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの



かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの  
かたの











あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる

あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる

あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる



あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる

あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる

あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる  
あまのこゝろ  
まはる







種彦作  
國貞画

春彦作



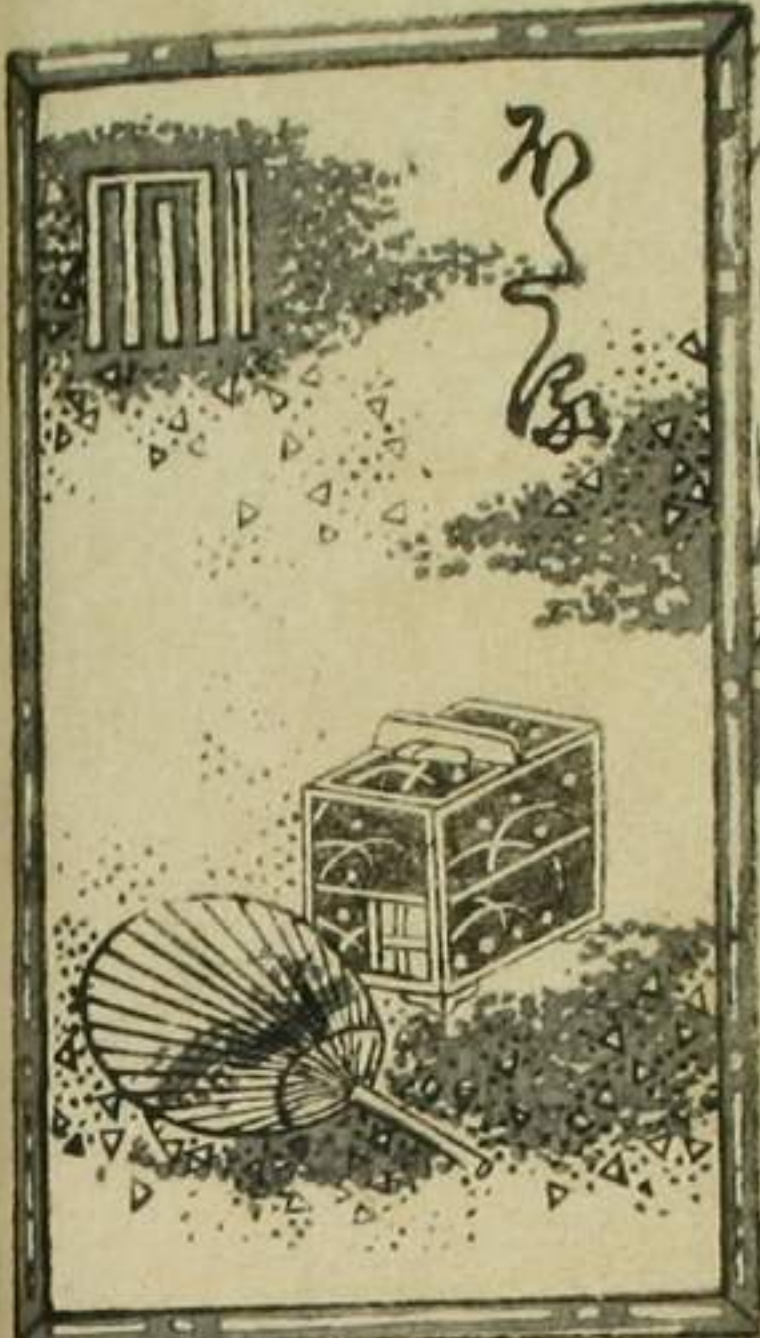
下編五十三



國貞画 種彦作

あしひらけのやうな髪に... 種彦の描いたもの... 春彦の描いたもの... 種彦の描いたもの...

三



に  
か  
る  
あ  
ら  
わ  
る  
な  
ら  
ん  
と  
は

か  
ら  
い  
り  
の  
し  
ん  
じ  
は  
な  
ら  
ん  
と  
は  
し  
ん  
じ  
は  
な  
ら  
ん  
と  
は



海  
原  
梅

左のりあはれ... 右のりあはれ... 源氏物語の一場面を描いた挿絵。右側に立つ女性が、左側に座す女性と対話している。背景には障子と松の絵が描かれている。手書きの文字は、物語の進行や登場人物の心情を記述している。

源氏物語の一場面を描いた挿絵。左側に座す女性が、右側に立つ女性と対話している。背景には障子と松の絵が描かれている。手書きの文字は、物語の進行や登場人物の心情を記述している。

今年八月  
己卯年  
あつちつて  
たれまへ  
つれづれ  
ゆれつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて



あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて

あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて

あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて

あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて



あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて

あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて

あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて  
あつちつて



右の女は... 左の女は... 源氏物語の一場面を描写する文章。登場人物の心情や行動を詳しく記述している。



源氏物語の一場面を描写する文章。登場人物の心情や行動を詳しく記述している。











Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the right page.



Vertical handwritten text on the right edge of the right page, possibly a page number or title.







